



ゆらこ

2011. 10. 10

マーク制作：関知磨子（秋津コミュニティ：蚊帳の海一座）

（融合研のホームページ） <http://www.yu-go.info/>

（事務局）〒273-0122 千葉県佐倉市中志津7-17-4（TEL&FAX）043-463-1929

本号の内容

東日本大震災から半年が過ぎました。被災されたみなさまには、改めて御見舞い申し上げます。

巻頭言：宮崎稔会長 「学校教育のシステムを有効ならしめるために」

- 1 「第15回融合フォーラム in 大阪」の概要
○おもしろい試みが多数。ゲストも豊富です。
- 2 「第14回融合フォーラム in 富士宮」の報告
○※報告が遅くなりました。
- 3 融合研被災地支援実行委員会について
○活動が始まっています。
○寄付を受け付けております。
- 4 役員会報告
- 5 総会への意思表示について
○大阪フォーラムに参加出来ない方は、誌上で意思表示をして下さい。
- 6 事務連絡
○2012年のフォーラムは仙台市内定
○2013年度以降のフォーラム開催の立候補・役員立候補を受け付けます。

巻頭言

—— 学校教育のシステムを有効ならしめるために ——

融合研会長 宮崎 稔

子どもを教育する方法として、ほとんどの国が学校という場で一斉に教育するという方法をとっています。日本でも、130年ほど前から、全国どこでも義務教育を受けられるようになってきました。これは知識を大量に効率よく授ける方法として極めて有効です。しかしこの制度は、それまでの家庭や地域（藩）で教育するという方法に比べて、人や地域を育てる方法として果たして有効であったかという答はまだ出ていません。いや、学校教育制度は当たり前すぎて、有効であるかどうかを検証しようとする試みさえありません。

組織が大きくなりすぎると硬直化すると言われます。制度も同様でしょう。130年ほどしか経っていない日

本の教育制度も同様のよう思うのです。よく引き合いに出されることにアメリカ開拓史があります。開拓者も、初期の頃は教育制度も警察制度もありませんでしたから、子弟に教育を受けようとするれば自分たちでお金を出し合って教師を捜してきました。そして、その教師が良い教育をしなければクビにして新しい教師を捜しました。同様に財産を守るためには保安官を雇用しました。財産を守ってくれないような弱い保安官でしたら、クビにして代わりの強い保安官を捜しました。目的の達成のために自己責任で行ったのです。ところが、そのための労力が莫大であったためと、さらなる成果を出すために制度としてシステム化したのです。捜す役割(教育委員会)や教え方を指導する機関(大学等)ができて、いわゆるプロが誕生したのです。これによって、少ない労力で大きな成果が得られるようになったのです。知識を大量に効率よく授ける方法として極めて有効に作用したのです。ところがその一方で、プロに任せきりであることの弊害も出てきました。本来は金(税金)を支払って雇用しているはずの主体者(市民)が、主体者であることを忘れてしまったのです。制度によって雇用されている筈の人が権力を持つようになり、どのような教育が行われていようと主体者は口出しさえできないようになってしまったのです。「知識の詰め込み」や「指示待ち症候群」など、子どもの発達が阻害されているという警鐘は枚挙にいとまが無いほどですし、「地域が教育威力を失った」という声も多く聞かれます。

私は、批判力もない子ども時代に、多様な価値観や多様な個性に触れることで培われる判断力や批判的精神がきちんと指導されずに、上から教え込む「学校教育」が継続的に行われてきたことにその原因の多くの部分があるのではないかと思います。

「人から学ぶ」という教育の機能は、どのような人から学ぶかが重要です。特に小学校期では担任と過ごす時間が圧倒的に多いものです。万が一、その担任と波長が合わないと子どもは苦勞します。のびのびと育った子が、几帳面な担任の学級で窮屈な思いをしている例はよくあります。几帳面なことは大切ですが、毎日・毎時間となると苦痛にさえなります。どこかで個性である伸びやかさを発揮する場が必要になります。逆に大らかな教師の下では、小さな事には「気にしない」と言われたりします。これでは、家庭できちんと躱られて来た子は戸惑いを生じます。担任の個性によって、楽しいはずの学校生活が左右されてしまって良いはずがありません。

小学校では子どもは担任に似てくるものだと言われることがあります。その一方で、幅広い人間性を培うことが抜け落ちてしまっただけでは学校の機能が十分発揮されているとは言えないと思います。こう考えてくると、教師は自分の個性を発揮しつつも、足りない面に目を向けて、それを補うための方策を講じる必要があります。そうすることによって、前述の多様な価値観や多様な個性が培われて判断力や批判的精神がきちんと指導されるのだらうと思います。したがって教師の役割も、これまでのように「教える人」から、「幅広い人を子どもに触れさせることができる人」というコーディネータの役割が求められるのだらうと思います。

私達は、地域と学校が融合して、教育力のある街をつくることによって子どもにとっても大人にとっても意味があるようにしようと学社融合を主張してきていますが、必ずしも順調に広がってきているとばかりは言えない面があります。動きが鈍い地区もあり、切歯扼腕している会員も少なからずおります。学社融合だけが絶対とは思いませんし、違う方法をとっても構わないのですが、でも方法はどうであれ学社融合さえやらない地区では一体どのような教育・どのようなまちづくりをしたいのかがなかなか見えてきません。

コミュニティスクール(学校運営協議会)制度は、これまでの教育の弊害に気づき、教育を主体者の手に取り戻そうという論旨の延長として出てきた面が強いと思います。一方、学社融合は、制度があろうとなかろうと「主体者」の学びと生活を目指しています。学社融合で、いろいろな人のいろいろな価値に触れたり、いろいろな考えを知ったりすることで、判断を他人任せにするのではなく、日頃から「自分はどうするのか」という立場に立つことを繰り返して経験する教育が主体的な人間を作ることで大切になってくると思います。

その一方で融合研としては、地域の多様な個性と触れあって育った子どもは、成長がこの様に違ってくるのだという成果を提起していくことも研究会の役割として大事な使命だらうと思います。融合研は、学社融合の評価として、地域の人に喜びをもたらすということには多くの事例を持っています。しかし、これまで子どもの成長の視点からの評価はあまりありませんでした。地域の方は、単発の得意分野での関わりが多く、一過性の関わりで子どもを見ていることが多く成りがちです。一方、学級担任は、継続的に関わるので育ちが連続の中で見えます。これからは、学級担任からの「なぜ学社融合が必要なのか」という事例が多く出てくるのが学社融合の有効性を推進する意味でも大切になると思います。そうすることによって、新しい形の学校の機能がハッキリしてくるのだらうと思います。

1 「第15回融合フォーラム in 大阪」開催要項

盛りだくさんの上に、ほんとうにおもしろい試みがいっぱいです。また、登壇者も豊富で多彩です。お楽しみに！！

第15回融合フォーラム 2011in大阪

主催：学校と地域の融合教育研究会（融合研）

主管：第15回融合フォーラム 2011in大阪実行委員会

後援：大阪府教育委員会（予定）、阪市教育委員会（予定）、堺市教育委員会（予定）

その他、申請中

全体テーマ『地域コミュニティどうしたらええんや！～人と人をつなぐ学社融合～』

※今回の大会は、3.11 東日本大震災後の被災地では、日頃からの学社融合が進んでいた避難所等がコミュニティとして機能していたとの会員からの報告により、その有効性をあらためて確認しつつより広めていく趣旨の内容とする。

日時 2011(H23)年 11月26日(土)8:50 普通授業 12:00 大会受付～27日(日)16:30 終了

会場 大阪市立南住吉大空小学校 〒558-0015 大阪市住吉区我孫子西 1-6-12 電話 06-6606-7181

参加費 会員 1,000 円 ※会員外の登壇者も 1,000 円 非会員 2,000 円(資料代「年報第8号」)

<26日(土) 一日目>

8:50 普通授業 一時限 8:50～9:35 二時限 9:45～10:30 ※どなたも参観いただけます。

10:50～12:00 大空ふれあいコンサート ※どなたも参観いただけます。

12:00～12:30 第15回融合フォーラム 2011in大阪 受付

昼食 ※大空小関係者による「おばんざい」 500 円 お茶付き ※参加申し込み時に事前要予約

12:45～13:00 融合研総会 ※昼食をとりながら

13:50～14:35 めっちゃおもしろ講座

※融合研会員による全国 21 都道府県の授業を大空小の全児童と参加者が受けるおもしろ講座「めっちゃおもしろ講座」 ※担当・内容がかわることがあります。

- 1 大阪府富田林市 「うめぼしばちゃんずう」（東北弁のお話し会）
- 2 大阪府田尻町 大空漫才ライブ～笑いの神が舞い降りる!?～
- 3 大阪市河内長野市 みんなと手話で
- 4 大阪府河内長野市 ちりめんモンスターを探せ
- 5 大阪府茨木市 京極孝夫 みんなでつくろう てづくりおもちゃ
- 6 大阪市 街頭紙芝居と立体紙きり
- 7 大阪市 つくってあそぼう万華鏡
- 8 大阪市 とびだすサンタ！（Xマス工作）
- 9 大阪市大空小学校区 身もこころも美しくなる魅惑のエステ
- 10 兵庫県三田市 糸電話で遊ぼう！
- 11 三重県熊野市 みんな大好き「子どもじぞうさん」の早描きに挑戦！！
- 12 新潟県 わたしのまちの“妖怪物語”をつくろう 清水隆太郎
- 13 岡山県 英語をはなしてみるかい
- 14 愛媛県 身近なもので電気を起こそう???
- 15 高知県 かっぱは、君たちの友達！
- 16 岩手県 宮沢賢治の創作教室

- 17 宮城県 食から知ろう！仙台と世界
- 18 千葉県 カプラで遊ぼう
- 19 神奈川県 みんなでつくろう！とぼそう！「くるくるスカイシャトル」
- 20 秋津コミュニティ いろいろ水彩画
- 21 広島県 大空小の歌を作ってみよう～たった 30 分でぼくもわたしも作曲家!!～
- 22 北海道 ガバチョで地球温暖化防止に挑もう

15:00～15:10 第 15 回融合フォーラム 2011in大阪 開会行事

15:15～15:45(30 分)ミニ講演 前川喜平(文部科学省大臣官房総括審議官)

※演題:「新しい公共」型学校と地域コミュニティ

15:50～17:40(110 分)シンポジウム

テーマ『地域コミュニティどうしたらええんや！～人と人をつなぐ学社融合～』

コーディネーター:岸裕司(融合研副会長)

登壇者:前川喜平(文部科学省大臣官房総括審議官)

堤祐子(仙台市教育センター主任指導主事・会員)

木村泰子(大阪市立南住吉大空小学校校長・会員)

大阪府池田市立池田中学校(栢木修教頭+三宅正起首席+小国喜弘東京大学准教授・全員会員)

※「新しい公共」型学校、学校支援地域本部事業、放課後子ども教室(旧地域子ども教室)事業、コミュニティ・スクール(その延長としてのスクール・コミュニティ)、大阪府と大阪市が推進する地域コーディネーター養成施策や、3.11 東日本大震災での学校とコミュニティの協働などを話し合う。

18:30～21:00 懇親会 ※懇親会費 3,000 円

※大阪市立長居ユースホステル 大空小から徒歩 20 分 電話 06-6699-5631

宿泊 大阪市立長居ユースホステル 〒546-0034 大阪市住吉区長居公園 1-1 5,000 円(シーツ+朝食付)

※洗面具、寝間着等は、自分で用意して下さい(シーツのみ支給です)。

<27 日 (日) 二日目>

9:00～9:30 受付

9:30～12:00 分科会 ※4 つの教室に分かれる

第 1 分科会 学社融合でキャリア教育を～もっと生き方のこと教えらなアカンちゃうの～

コーディネーター:清水隆太郎(えにし屋・新潟県)

発表者

○熊谷裕行(仙台市立西中田小学校教頭・宮城県)

○松浦真(NPO子ども盆栽・大阪府)

○中辻孝典(OSAKAきつずな一・大阪府・会員)

コメンテーター:野澤令照(仙台市立寺岡小学校校長・前仙台市教育次長・融合研副会長)

第 2 分科会 はぐくみネット+すこやかネットとの融合～おんなじことめざしてよる一や 行政も地域も～

コーディネーター:高田一宏(大阪大学大学院准教授・会員)

発表者

○大空小学校教職員(リーダー研・村口飛鳥・大阪市)

○岩切美恵子(大空小学校はぐくみネットコーディネーター・大阪市)

○明貝一平(OSAKAきつずな一・大阪府・会員)

○佐々中雄司(大阪府教育委員会)

○福嶋功(大阪市教育委員会)

コメンテーター: 渡邊喜久(静岡県富士宮市立芝川中学校前校長・融合研副会長)

第3分科会 地域コミュニティの再構築～学社融合でコミュニティが生まれ変わるんちゃうか～

コーディネーター: 宮崎稔(融合研会長・千葉県)

発表者

- 市場達朗(大空小学校教頭・大阪市)
- 衛藤裕(池田中学教諭・大阪府・会員)
- 藤尾智子(紫波町生活部福祉課長・岩手県・会員)

第4分科会 学社融合は厳しい環境の子どもをどう受け止めるか

～ホントに見つめらなアカンこと忘れてないか～

コーディネーター: 新崎国広(大阪教育大学准教授)

発表者:

- 横山泰介(池田市立池田中学校前校長・会員) + 濱地慎一郎(池田中学校卒業生、池田市議会議員)
- 車育子(ちゃゆっちゃん、秋津コミュニティ副会長、「秋津・地域であそぼう!」教室実行委員会会長・千葉県・会員)
- 及川総逸郎(岩手県宮古市立赤前小学校校長) + 佐々木平一郎(岩手県宮古市立赤前小学校区赤前仮設住宅自治会長)

コメンテーター: 岸裕司(千葉県習志野市・秋津コミュニティ顧問・融合研副会長)

12:00～13:00 昼食

※大空小関係者による「おばんざい」 500円 お茶付き ※参加申し込み時に事前要予約

13:00～14:00 全体会 分科会報告

司会: 永谷貴弘(融合研プログラム研究開発委員長) + 報告者: 4分科会のコーディネーター

14:00～16:00 本音で話そう! ワールドカフェ

※フォーラム参加者がおもしろい店主のいる15のカフェを渡り歩き、話し互いに相談しあう

司会: 中村有美(NPO関西こども文化協会・大阪府) 発表者: 参加者全員(6人×15店)

16:00～16:30 次期開催地挨拶+閉会式 解散

<おまけ ふたつ> ※どなたでも参加いただけますので、可能な方はぜひご参加ください。

17:00～18:00 ※自由参加の「親学習」体験講座

大阪府教育委員会では子どもの学習以外に親を対象にした学習プログラム「親学習」を作成しました。また「親学習」を広めるため「親学習」養成講座を開催し指導者の養成も実施しました。その結果、大阪府内では自主グループによる「親学習」が各地で開催されています。その「親学習」を実体験していただくために大阪府内のグループによる講座を開催します。どなたも参加いただけますので、可能な方はぜひご参加ください。親学習グループ 水谷邦子+大谷裕美子が主宰します。

17:00～18:00 ※自由参加の授業づくりの学習会「MJK」

池田市立池田中学校のMTP(マイタウンプロジェクト)では、授業づくりを研究する自主組織として未来人権教育フォーラム(略してMJK)を催しています。教師だけで授業のことを考えてもあまり変化や進歩がないと割り切り、親や学生・研究者とともに取り組んでいます。今回は大空小をお借りして開催します。どなたもご参加いただけます。可能な方はぜひご参加ください。池田中学校栢木修教頭+三宅正起首席+小国喜弘(東京大学准教授)らが主宰します。

< 大阪フォーラムを開催する意味 大阪の実行委員会の考え >

1. 学校教育カリキュラムと融合研が協働して授業をすることで、Win & Winの「学校と地域の融合教育」を

創りだしたいため。

2. 学校施設を活用することが、「学校と地域の融合教育」に最もふさわしい教育コミュニティを生む場であることを示して広めるため。
3. 行政バリア(大阪府・大阪市)を取っ払い、この大会から同じ事業目標で協働するようになってもらいたいため。
4. 大会は融合研主催であるが、運営や目的については関西地域主体の実行委員会による地域のための「学校と地域の融合教育」としてとらえてほしいため。
※実行委員会は大空小学校の教職員と地域住民と大阪府・大阪市コーディネーターと融合研大阪支部会員と行政担当で構成する。
5. 先に進むとすれば、どうしても周囲から叩かれ引きずり戻されることもあるが、それが融合のあかし(感心があるから叩き引きずり戻そうとするモーメントが働くのだから)。
6. 大阪らしいツッコミとボケを盛り込んだ笑い劇やチョイ出現もありのフォーラムで、「ああ、楽しかったなあ」とみんなにってもらえるフォーラムにする。
7. フォーラムを通じて、各分科会と全体会から学社融合のメッセージを明確にみなさんへ伝える提言を発表する。

2 「第14回融合フォーラム in 富士宮」報告

○※報告が遅くなりましたことをお詫びします。

第1分科会 食育と学社融合

コーディネーター：矢吹正徳

発表者1：渡辺孝秀（静岡県富士宮市役所フードバレー推進室長）

発表者2：中村和憲（愛媛県松山市小中学校PTA連合会会長）

発表者3：春日良樹（新潟県上越市立里公小学校長）

1 発表者・記録者・参加者自己紹介

2 食育の重要性・食育の現状について

(1) 学校と食育、子どもと食育、家庭と食育について、それぞれの立場からどう見ているか。

① 学校としての食育（春日）

食育はすべての公立学校で取り組んでいる。個人的には『食育基本法』はないほうがよいと思う。朝ごはんを食べさせたかだけでなく、環境を整備することのほうが大切と考える。朝ごはんを食べる習慣のある子どもは学力が向上する、というようなブームで終わらせないことが大切。

いろいろな授業や行事が食育に関係するので、教職員の食育教育への意識は高い。

子どもたちも、衣・食・住にかかわる行事は大好き。

② 家庭としての食育（中村）

世の中が便利になり、今まで見えていたものが見えにくい時代となり、意識して環境を作ることが大切。PTA活動を通して、保護者同士がつながっていることを学んでいきたい。

「親が朝ごはんを作らないなら子どもが作る」ことについて

家にいる間に、自分のご飯を自分で作ることができるようにしておくこと、自分で作らなくてはならない状況になったときにできることが大切。

③ 行政としての食育（渡辺）

70%以上の市民が食育について意識している。

「食に関する企業50社アンケート」の結果、企業も「食」を意識していることがわかった。売り上げが上がっている20%、横ばい30%という結果は、6年間の効果が現れている。幼稚園の先生の講演会でも「食」を意識した内容のものが行われている。

シティプロモーションの立場として、もっと現場の声を知りたい。

「フードバレー構想」により、給食メニューやテレビ番組について、家庭での親子の会話が広がっている。ニジマスが家庭の食卓に上りやすくなるなど、市役所や街の人たちが盛り上げてくれていると感じている。

体調調査（朝食・体温・排便）を行っている。

「早寝・早起き・朝ごはん」は国がやるものではない？

(2) その他の事例（矢吹・会場より）

- ① 福井県では、栄養教諭が学校外で食育についての啓発事業を実施。
- ② 富士宮市では35校に1人の栄養教諭を配置。各学校で年間指導計画・学年別指導計画を作成しており、栄養教諭が有効に活用されているかどうかは疑問。（年3回栄養教諭を活用すること）指導の前に、子どもたちと一緒に給食を食べる努力をしている。指導後のアンケートでは、給食を頑張っているようになったとの回答あり。
残食を減らすことが、一人の教諭の肩にかかっている現状があったが、管理栄養士会やPTAと協力して食育授業を受けることによって、変容があった。

3 事例発表

(1) 一人ひとりの命を輝かせて～命の物語「生きること」を伝える食育

中村和憲（松山市小中学校PTA連合会会長）

自分自身の子育てとともに、食の大切さを感じている。

愛媛県は海と山のある豊かな地域。住んでいると分からない物語を伝えたい。

子どもたちを取り巻く環境の変化により、家庭内が5人で10通りの人間関係から、3人で3通りの人間関係になってしまった。

地域で意識的に「つながり」を構築しなくてはならない。

料理を習うことなく結婚する人もいるなど、子どもたちだけでなく、大人も「学び」の機会が減っている。

「食」は人をつなぐ。「食」は「人」を「良」くする。「飲」は「人」を「良」くするのに「欠」かせない。

命のつながりは26代700余年で134,217,726人。

『命は命からしか生まれぬ』（あいだみつお）

命の源は「食」

心豊かに生きるために「命」について知ることが大切。

PTAの役割とは「楽しさの中で自然に学ぶ」こと。

《単位PTAの取り組み》

坊っちゃん学習

家庭教育・学校教育および地域社会の理解と振興を図り、保護者と教師がそれぞれの役割を認識し、児童・生徒の健全な成長に寄与していくことを目的とする。

基本活動分（1単位PTA30,000円）、企画活動分（実施希望PTA）で総額3,730,000円が松山市より委託されている。

親子で味噌作り

総合的な学習・PTA学級・公民館などで実施。

保護者が仲良くなる、あいさつができるようになるなどの効果あり。

仲の良い大人同士のつながりが、安心安全な地域を作る。

双葉小学校20周年祭

先生・子ども・保護者のつながりで、参加しやすい事業に。

《市P連の取り組み》

親子ふれあい食育レストラン

1500名の親子が参加し、野外でピザ・肉まん・サバイバルめしを楽しんだ。

参加者もスタッフ（PTA会員・大学生・高校生・PTAOBなど）もともに楽しんで取り組むことのできる事業にするためには、参加者をお客様にしすぎない、お客様を作らないことが大切。

22年度は、参加費と持参物を増やしてハードルを上げて、家庭での話題作りを目指す。

食育の2本柱

食べることは生きること⇒人権教育であり、言葉で伝えることが大切。

生活習慣⇒親のそばにいる間に良い習慣を身につけることが大切。

朝ごはんは子どもたち、家族への「エール」

大人は子どもたちの応援団、心のふるさとを作っていきたい。

○食育について、単位PTAではどのような活動を行っているか？

（中村）食育レストランは単Pや地域に広がっている。アイデアを発信して、自分たちで出来るようにしていきたい。

（渡辺）個々の単位PTAでの活動は行っている。「食べること」を行政で指導することは×？

(2) 農の大地に根差し子どものこころにふるさとをはぐくむ学校

学校の仕事ですから学習活動の充実こそが大事なのでは…！？

春日良樹（上越市立里公小学校長）

《里公小学校について》

10学級、児童202名、教職員15名、上越教育大学院生

校務分掌が多く、雑務も多い。

新興団地から通学する子どもが多く、米作農家の子どもは少ない。

田んぼから子どもの仕事がなくなってしまった。

純朴な田舎の子どもなどいない、多くの課題を抱えながら生活する子どもたち。

《里公小学校の教育活動》

米作り ⇒総合的な学習で担任と子どもたちが行う。

野菜栽培 ⇒「人間関係調整力の育成」を目的として全校縦割り班で実施。

看板に作りたい料理を書いている。

収穫感謝祭⇒上下学年につながり、感謝の気持ちを持って。

2年生活科⇒「やわ肌ねぎ」栽培にチャレンジ。

本物体験の重視（販売収益で種を購入し、パーティーを行うなど、活動の質を高める）

3年生活科⇒「三和のお宝発見」で授業の向上と地域力の向上を目指す。

創立100周年記念事業

初めての給食～昭和20～30年代の給食～リクエスト給食～地域の方との給食

教育ファームの定義と期待される効果

上越カリキュラム（里公カリキュラム）⇒4月始業式の日話し合いで決める。

《上越子ども米サミット》

米作りをする4つの小学校の5年生が一同に会して、農業の後継者問題や

米粉問題について考えたり、他校の意見を聞くことで、自分の考えを深めることができる。

《5年 本気・協力・心意気》

教員のやる気を生かす授業。独立採算制。

機械化と手作業の問題

よりよい米を作ろうという「本気」へ。

安全な農薬とその使い方とは？

俺たちの米だ。

清水さんの米の値段は下げられない。
儲けをどうする？
子どもは人からしか学べない。
米の消費拡大を願ったお弁当作りの新聞広告
三位一体の学校運営

4 質疑応答など

- （矢吹）上越では教師同士の授業の切磋琢磨が進んでいる。
地域おこしの授業の向上がWinWin
学校の役割とは？
- （渡辺）農水省より500万円の補助で食事バランスガイドの認知と実践
朝食欠食割合の減、残食の減（47.2t→44.8t）
数値目標を管理栄養士会と協力して、地域・スーパーで指導。
栄養相談、食事のとり方の指導。
若い世代に、朝食の欠食が多い。
おむすび給食12000食で残食減。
- （会場より）いろいろな部署からのアンケートは無駄。
大人が大人の指導はできないので、子どもを指導。
授業や講演活動を通して、意識の向上を図るが、聞かせたい親は学校に来ない。
ミルクラメン・ニジマス学会・おむすび給食（べたべたして大変なので、のりまきに）
朝食は中身が問題。

5 まとめ

- それぞれの立場での課題は？
（渡辺）現場サイドでは取り組みにくい。落としどころをどうするか。
学校給食は、地産地消で実施できるのか。
地元産の小麦での焼きそばは作れない。1年間の契約はできない。
栄養士会は人がいなくて大変。
JA、NPOなどの交流、こだわりが勉強になっている。
- （中村）若い保護者を支える。
PTAを卒業しても社会活動が出来るような足場作りが大切。
イクメン⇒行政の支えや、仕組みでいくことで、父親の参加を目指す。
- （春日）教員には、情報を選択する能力が必要。
授業そのものの質を高める努力をしなければならない。
- 「食と命のかかわり」
「食」はいろいろなところが活動している。
「命」と「人」のつながりを学ぶこと。
- 食卓の日アンケート
子どもの感想⇒自分の畑の野菜がおいしい。
普段見えないことが見えてきた。
家族の会話が増えた。
貴重なデータをどう生かすのか。
栄養教諭の配置で意識が高まってきた。

第2分科会 学校からのアプローチと学社融合

I. 発表1・全体会にて発表

『学校作り』が『まちづくり』に貢献できるのでは？

「学校教育と社会教育の融合から地域を考えていく」

大阪府池田市立池田中学校 教頭 栢木 修

2007年、中2の職業体験学習で、学校から地域（池中校区）に「ちょっと、手を貸して」ということがきっかけであった。教師が170名の受け入れ先を確保し池中校区に出向いたところ、地域の反応がよく手ごたえがあった。

その後MTP（マイタウンプロジェクト）活動から後にNPO化となった。

マイタウンプロジェクト（MTP）

学校（教職員）・家庭（PTA）・地域（卒業生や地域スタッフ）が一体となって、子どもたちの成長を応援するプロジェクト、およびこの団体の総称です。

DJ（土曜授業）

30分授業し60分プリント学習をする。大学生、卒業生や地域の人（アシスタントティーチャー）がサポートする。

学生ボランティアの存在が大きい・・課題を抱えた子どもとの関わりなど

II. 発表2

「環境をはぐくむ学校を目指して」

三重県志摩市 広域通信高校代々木高校 校長 一色 真司

1993年、オルタナティブスクール（もうひとつの学校という意）として「代々木高等学校」開校・・自由教育を中心とした学校を目指す。

約75%が不登校という既存の学校スタイルにはまらなかった生徒が多い学校

テーマ

① 「自分の意思と足で歩けるように」

② お互いを認め合う

③ 最初に一度、全てを受容

④ 考え、気づかせる（カウンセリングはおこなわない）

・「学校に行かなければならない」という概念から開放を目指す→NPO等で啓発活動

・「子どもを育む場所が学校である」→環境が変わればヒーローになる。

一斉授業で集団生活を乱す子は、問題児扱いに→（問題児ではなく個性児）それを変えたいという理念

・自分を後押ししてくれる「環境」を探す。環境とは、地域コミュニティや大人を巻き込んで整えて行く、様々な組織と融合しあうこと

志摩市の融合

人口減少によって、小学校の廃校が増える。経済が下降気味（観光、真珠の不人気）→学校を核にして一緒に頑張るプロジェクトの立ち上げをした→「伊勢志摩元気プロジェクト」

元気な大人は悪影響を与える→元気な大人を紛れさす

「伊勢志摩元気プロジェクト」

・“子ども支援”というプラットフォームに乗ってもらい、行政の協力を打診し横断的な活動により、行政とすみわけをする。

例えば、子育てフリマ、キャンドルナイト、七夕祭り&星座観測

・賢島大学（年6~8回 講師を招いての講座）教育だけではなく産業にも貢献したい

⇒『開かれた学校づくり』を目指す

III. 発表3 「安心・安全を目指した学校づくり」

神奈川県厚木市立清水小学校 総括教諭 伊藤 敬子

・学校の概要

創立137年 児童数900名以上 ・・「清水っ子」と呼ぶ

・きっかけは

安全の課題：校内の外傷件数、交通事故の頻発、不審者⇒LSS（International Safe School）との出会いからそれを目指す・大阪教育大学附属池田小学校が日本で始めて認可されている

取り組み

① 児童の取り組み

代表委員会から各種委員会で取り組む

五つのテーマ「明るい」「優しい心」など

例えば、「校内ケガ予防運動」「ISS シンボルマーク決め」

「ケガマップ作成」「呼びかけ運動」「あるくゾーン調査」→舗装改装を実現

② 教職員の取り組み

研究組織 テーマ「命を大切にし、自ら考えて行動できる児童をめざして」

・全大会で講師を呼ぶ（WHO 関係者 附属池田小学校教師）

・「命の授業」授業研究部

・6年生の総合学習で学習→1年生に伝える 危険部の調査から依頼書作成

・環境整備部→月1回の安全点検、安心安全ギャラリー

・児童活動部

・安全教育部→自転車用ヘルメット着用啓発運動

③ PTAの取り組み

テーマ「みんなで守る！清水っ子の安全、笑顔」

・自転車安全教室の実施

・地域安全マップ作成

④ すこやかネットワークの取り組み

約80名で組織している

・愛の目運動（見守り隊）

・安全環境の整備

その結果

・校内ケガが約900件減少した

・交通事故が7件から1件に（ゼロ日数380日）

・不審者による被害はなくなった

IV. 質疑応答

Q) 「わが子が困難を抱く親は葛藤が多いが、代々木高校に通う子の親からどんな反応があるか？

A) 領域広くなった、10年前までは「行き場がない」子が大多数（今でも半分くらい）だったが最初から強い信念を持つ親が多くなっている。一方今は本人が「学校に行かなくっちゃ」という気持ちが多い気がする。保護者会が盛んになってきている。

Q) 「池中来る地域の人固定化する現状をどう克服するか？

A) きてもらえるだけでありがたい、そこから可能性が広がる。

新しいことを常に挑戦する（しんどいけど楽しむため）ことが重要

Q) 「新しい組織（学校支援地域本部）と既存の団体の共存はどう考えるか？

A) 代々木高校の取り組むはいいと思う。池中は、NPO化（池田市活動公益団体化）→池田市全体を視野に5中学校区がよくなったらいいと考えている。新しい展開をする上で学校がやるよりMTPがやる方が柔軟ではないかと思う。

Q) 代々木高校のプランのコンセプトを詳しく聞かせてください？

A) 産官学がそれぞれの人思いを持って関わる。マニュアルがないから、マニュアル化をしていきたい。理解されたいので、もっと研究活動が必要だと感じている。

V. 課題提言

1. 今後、学校も地域も組織の固定化、マンネリ化や精度疲労にどう対応して行くか？

2. 新しいこと（発展）可能性の拡大をどう広げて行くのか、地域の力とどう結びつけるのか？

- 教育の中にも常にイノベーション（改善改革）を導入していかなければいけない。
3. 教師の入れ替わりがある以上、持続可能な制度を築きあげるため学校がどう対応するのか？
そして
教師の意識改革が必要でどうしていくか？また地域に向けどのように発信して行くか？
 4. 教師の意識改革はチームで学校を動かして行くことが大切で、教職員が協力することで家庭・地域を巻き込める可能性が大きい。
今後の課題として議論を重ねて生きたい。

第3分科会 地域からのアプローチと学社融合

コーディネーター 宮崎 稔（融合研会長・島根県総合教育審議会委員）

発表者1 江口勝善（千葉県四街道市地域子ども教室“まじやりんこ”代表）

発表者2 大塚清美（富士宮子どもと読書の会代表）

発表者3 江藤健二（青森県庁南地区社会福祉協議会会長）

- 1 開会
- 2 担当者、コーディネーター、記録者自己紹介
- 3 事例発表②「子どもたちに読書の楽しさを」
～読み聞かせ、語り、ブックトーク～ 大塚清美氏

はじめに

- ・もともと学校のためにやっていたことではなかったが、現在は学校にも関係があるので紹介する。

活動の経緯

- ・20年以上前からささやかに行っていた活動だが平成1年に図書館ができたことをきっかけとして「富士宮子どもと読書の会」が発足し、連絡会でそれぞれの活動の情報交換ができるようになった。
- ・読み聞かせだけでなく講演会企画やストーリーテリングなどさまざまな活動をしている人たちが集まっている。
- ・平成13年富士宮市「読書と読み聞かせ推進事業」になり、内容が充実し、ボランティアだけの時代ではできなかった各授業での読み聞かせやストーリーテリング、ブックトークもできるようになり、ブックリストを作って各学校に配布され活用されるようになった。
学校との関わりの変容
- ・20年前は「絵本は家庭で読むもので、学校では本は自分で読ませなければだめだ。」と言われることもあったが現在はむしろ学校から声がかかるようになり、大忙しで学校を回っている。

学校の考え方との違い

「物語を読んでもらいたい」「人間に対する興味を持ってもらいたい」という考えなので

- ・読書感想文を書かせることは本嫌いを作るのでやらない。
- ・何ページ読むといった数値目標は意味がないので目指さない。
- ・自分で読める子どもに対しても読んであげる。
- ・あまり声色をつけない。
→たまに学校の考えと食い違いが生じる。

今、課題と感ずること

- ・朝読書で子どもたちはケータイ小説やアニメ小説などを読んでいる。内容を検討したほうがよい。
→ぜひ読んでほしい本がある。本の中でいろいろな人に出会って人への思いを育てたい。
- ・学校図書館の本がもっと幅広く整備されてほしい。
- ・先生方にももっと本を読んでほしい。



4 事例発表③「真似ながら習え（自己教育力）」工藤健二 氏

融合研にふれたきっかけ

- ・岸先生のお話をラジオで聴いたのがきっかけで「地域づくりは人づくり」を意識して学校経営をしてきた。

活動の経緯

- ・定年後「教護施設」の勤務を経て学校の余裕教室に「コミュニティルーム」を設置、その後「地域子ども教室」の運営を行った。
- ・平成 19 年度から「放課後子ども教室」の開設となった。

現在の課題

- ・「放課後子ども教室」は年間 250 日以上開設など運営基準が厳しく、地域力のみならず保護者の支援での運営を学校に相談したが受け入れられない。

活動への思い

- ・戦争を知らない、物の豊かな時代に育った親や教師だけでなく地域の力を大いに活用することで子どもが育てられ、地域が育つ「循環型社会」になると思う。
- ・男性やお年寄りの読み聞かせもきっと子どもの興味を引くおもしろいものになるのではないかと思う。



5 事例発表①の補足

「子どもの居場所がかかわり育つ子どもと大人」江口勝善 氏

資料 130 ページからの「さぽうとさんたちの想い」について

- ・日常的にメーリングリストでやりとりしている内容が社会教育課にも届き、返事なども来ている。
- ・“まじゃりんこ”が市民のボランティアだけでなく行政も関わっている。



6 話し合い

質疑応答

質問者 1：読みきかせを通して学校との考えの違いを知ったという話があったが、関わりをする中で学校のシステムが変わるようなことはあったか。

大塚：それぞれのやっていいことは別でいいと理解している。事業の中で学校から「読書感想コンクール」をやりたいと言われて「読書体験の発表」に変えてもらったり、県の目標で読書の数値目標があったが富士宮市ではやめてもらったりした。これは市の会議での話し合いで決定した。学校からのブックトークの依頼で教科書に書いてある本についてやってほしいという要望があったが「それは学校でやってください」とお断りした。私たちは本当に読んでほしい本にこだわって活動している。

富士宮市学校教職員：学校からお願いしても断られ続けているうちに納得できた。サポーターがやることと学校でやることは違うと思う。

質問者 2：このコミュニティづくりはやはり摩擦が起こる。大きな壁がある。続けるための方法を教えてほしい。

司会：秋津でも最初は学校と地域の対立がひどかった。壁は教師の思いである。

大塚：行政の事業ということで意見が通ったことが大きい。ボランティアとしてだけだったら通らなかったと思う。行政の考えも理解してコーディネートする人がいることが重要だった。

四街道市社教主事：平成 18 年「地域子ども教室」から「放課後子ども教室」になり、居場所づくりをコンセプトにしたボランティアに対しては手を出さず、活動を広報し評価するというこ

とを繰り返してきた。市内の市民活動が活発な理由はそのこともある。

四街道市活動団体：四街道の重点施策として行ったら福祉や環境の分野の団体も子どもたちのために動いていた。持続の源は自分たち以外の団体も活動を支える形にしたのが良かった。それを見守ってくれる行政があったのも良かった。

江口：田植えや稲刈りに参加することを子どもたちは楽しみにしていて、子どもの存在そのものがボランティアの人の励ましになっていた。また活動のためのボランティア養成講座や子どもたちの討論会、広報は行政がやってくれた。

工藤：学校から依頼されて農業体験などいろいろ手伝った地域の人を収穫祭などに呼んだらいいと思う。学校と地域が交渉できる形がまだできていない。

司会：人が変わっても変わらないような発想でどうアプローチしたらよいだろうか。

富士宮市校長：地域の課題が学校の課題になる。校長の経営方針がしっかりしていないと難しい。学校のトップの考え方は影響する。静岡県では「地域と共に～」という方針なのでみんなその通り行っており、地域とのいざこざは少ない。

江口：まじりんに来ている子どもたちの中にはいろいろとボランティアに迷惑をかけてしまう子もいるが、そんな時に校長が何度もあやまりに来た。フェイストゥフェイスで付き合い合っていくことが大切だと思う。

大塚：人と人との関わりが大切だと思う。家族がそれぞれ電子メディアに時間を取られる生活に危機感を持っている。同じ思いの大人に伝えたい。

工藤：来る者拒まず去る者追わずという考えである。社会性のある大人が少ないのが心配。もっと子どもを育てる場面に関わりたいと思っている。ぜひPから要請を受けたい。

司会：今日話を聞くと一人では通じない思いが団体として、または行政としてなら通じる場合もあるようだ。ぜひ今後の活動の参考にさせていただきたい。

7 閉会

第4分科会議事録 地域と家庭をつなぐPT(C)A活動

コーディネータ 岸 裕司

<事例発表>

第一発表者：高知県南国市稲生小学校PTCA前会長 前田学浩

「PTCAを深めていくための情報発信による情報共有化・そして広報展開」

(発表終了後)

岸：ハイありがとうございました。お尋ねしたいのですが、C(地域)を入れることで何が良くなったのか、PTAの役員になりたくない、面倒!という保護者が多いですね。それどころかPTA法という法律もないのに「PTAは任意加入」だということを知らないで、親になって小学校や幼稚園に上がったら自動的に入らせるものだと思いこんでいると、それでノイローゼになったとか、入院する方もいらっしゃる、そのような非人権的なことも起きている。そのような問題あるPTAにC(地域)を入れることで「メリットになった」とか「面倒になった」とか、という議論があるので、端的にここが良くなったことをお聞かせください。

前田：高知県は共稼ぎ世帯が多く、実際にPTA活動に参加してくる機会は少ない状況です。もちろん前向きな保護者は多いですが、実際は共稼ぎなのでPTA活動に出れない、それを地域の人たちにカバーしていただいている状況です。「わしらはPTCAのCだから」と言って新しい活動に参加してくれる人が増えました。実際にこのように言ってくれた人は84歳の農家の方ですが、ご高齢の方がこのように言ってくれたということは成熟してきたように思っています。任意で参加することが原則ですけど、無理に引っ張っていくようなことはしません。ただ、楽しみたい!あの人たち楽しんでいるね!仲間を増やしていきたい、ちょっと消極的な保護者である仲を増やす手段としていきたいと思っています。

岸：ストーリー制のある活動、楽しいな!思えること、そのあたりが人を引きつける、次への継続につながるPTACAの魅力のポイントではと思います。

第二発表者：岡山市立宇野小学校 P T A 元会長 太田直宏

「新しい公共を担う P T C N A—持続可能な地域コミュニティ創設にむけて」

(発表終了後)

岸： プールの運営とか学童保育の運営も P T A がやっているなんで、すごいですね。岡山は協同組合の発祥地ですね。「イヤダイヤだの P T A」なんて言ってもらえないところがありますね。

第三発表者：富士宮市立貴船小学校 校長 伊藤世津子

同地域コーディネータ 佐藤久美子

「子どもとともに育つ

～みんなをつなげ、みんなとつながる貴船小学校サポーターズクラブ～

(発表終了後)

岸： P T A という既存組織があって、さらに学校支援地域本部事業というのが始まったのでその名称を P T C A (正式名称貴船小学校サポーターズクラブ) になったのですか？

伊藤：子どもが学校の中だけでは育たない、あるいはさらに育てるためには地域と連携、地域といかに関わることが必要かという動きの中で、組織だけは出来ていました。その組織の中に P T C A 会長さんも入っていただきましたが、でも組織力をステップアップしたい、動きのあるものにしたい、目に見えるものにしたいという初代会長さんお願いとで、学校支援地域本部事業に名乗りをあげて、中学校単位ではなく、小学校単独で推進していこうと、ただ佐藤が生活支援、家庭の中で育てにくい、育てられなかった子どもたちが学校に上がってきたときに、何とかしたいという支援があり、その流れと学校支援地域本部と相乗りすればもっと幅広い活動になるとの願いから P T C A の活動は成り立っています。

岸： 組織論的にいうと保護者も教職員も会員になっているのですか？

伊藤：そのとおりです。

岸： そうすると教職員は保護者との団体と地域の団体の二つに会費を払っているのですか？

伊藤：そういうことはありません。P T A P T C A が包括的な組織で、その中に P T A がありますので、保護者と教職員は P T A の会費、P T C A の C は総合的な部分でお金ではなく「自分融資だよ」と考えています。自由な組織となっています。

岸： 機能としての P T C A ですね。発展系のような気がします。

沖縄において全体会での発表時間不足より、発表できなかった部分の補足発表

：那覇市銘苅小学校 P T C A 初代会長 長堂和男

地域と取り組んだ「銘苅小学校・幼稚園創立 5 周年記念事業」

<第 4 分科会事例発表終了とともに意見交換(敬称略)>

岸 4 発表者にお尋ねです。活動する中で、立ち上げることで、P T A から P T A C に変えた中で、困ったこと、こんなことを締めたに変えたこと、またはより発展した事例がありますか？

前田：総会が年に一度しかない、4 月のタイミングしかないので、開かれた学校づくり推進委員会の方をお願いしたのが 2005 年 6 月です。開かれた学校づくり推進委員会の会議は了承されましたが、正式に P T A 総会の承認されたのは来年度の総会までの 10 ヶ月かかった。P T C A P T C A と判らないままに 10 ヶ月を過ごしてしまった。期間を待つという生みの苦しみはありました。

長堂：P T A C ですと、P T A 会長が一番えらいじゃないですか。地域の方からあたり前に怒られることがあります。例えば、会計のこととか、地域には細かいことをいう方がいらっしゃって、ありがたいこと、注意や指摘などをしてくれるのですが、そういうことを素直に聞く体制が出来ていないと地域と保護者の間で「ぎくしゃく」するのかなと思います。

もう一点は、保護者に対しては子ども通してプリント 1 枚配れば、広報したことになるのですが、地域の方にはついつい広報を忘れがち、地域会員の方にお知らせしなくて、「あら、こういうこともあったの」なんてあとから言われることもあり、広報だけは常に意識して出

来る限り学校のことをお知らせするよう心がけています。

伊藤：一杯募集して人が集まってきました。その方たちをどの分野でいつ誰が何をどうす

るかという計画をまたお伝えするまでの「行ったりきたり」の一連とメニューがスムーズに今はなっているのですが、佐藤のほうから報告します。もう一点ボランティアの方は熱意があるのですね。自分で「こうしたい」「あーしたい」と思うと、でも学校は時間で動いていて学校の身勝手に時間でカリキュラムを組んでしまったり、変えてしまうのです。その辺のところギャップというかずれが出てきます。悩みというか、生の声を佐藤から報告します。

佐藤：1年目の指導のときに計画をたてて、お知らせするのにかなり時間がかかりました。

6月に配布して、活動できたのは9月でした。連絡調整するのに1月半時間がかかりまして、どうしていいか、どのようにしたらいいか、初めてのことなのでごく困りました。熱意のことですが、ボランティアの方の中には専門職の方もおり、自分の専門職をPRしたいがために、学校のあり方を理解せず、英語のボランティアをお願いしたら、「英語を自分で教えないかならなければならぬかな」と錯覚してしまい、自分の考えと違うと悩まれていました。学校がある授業を行うにあたり、学校では地域の方が入って「地域の方がやりやすいように」ということで学校がやっていただいたのですが、プロフェッショナルの方は比較的「タッタッタ」としてやらなければならないと私に言われるのですが、それを学校の中で受け入れられないわけではないので、その辺をどのように学校に伝えればいいのか私も困ったことがありました。

お伝えするなかで校長先生も言われたことですが、学校というところは、地域の組織と学校の組織の組み立てにズレがあります。社会の中での組織はある程度見識ある方々が集まって成り立っている組織ですが、学校は「育成の場」の組織なので考え方の違いがあり、すべてをお伝えできないこともあります。

「お伝えしたらトラブルだろうな」とか、「いやな思いをするだろうな」という意味である程度私の頭の中で行き来しながら、そのことはちょっと時間をおいてお伝えするとか、でもスピーディにお伝えしなければならないことはお伝えする、その辺がすごく、一番困ったことは先ほどの「熱意の部分」の考え方、価値観が違ふとことが学校にご迷惑を掛けてしまう。その熱意も子どもが相手ですので、その熱意を受けることが出来ない、その辺をどのように調整するかが難しい。失敗してもあまり気にせず、気にしてもいい加減にさらりと流して、次のことを入れていかないとコーディネータはちょっと、全部受けてしまうと大変になってしまう。どうすればいいかわからないことがある程度ありますので、学校の中でお話しながら進めていくことと見えてくる。ただ、地域の方々には子ども達に教えてあげたいという強い熱意がありますので、その辺を次の課題として上手に組み入れながら、地域の方々を入れていくかなということが次の課題になっています。

岸：太田さんは何かありますか

太田：楽しみながらやっていこうと思っているのですが、僕達の小学校、宇野小学校は日本にいくつあるでしょうか？はい、三つしかないですよ。岡山の玉野というところと島根です。島根は廃校になったので2校だけなのですが、宇野でつながることは「カードゲームノダ」そのカード会社と連携してカードゲーム全国大会の会場にするとか、なかなか面白かったですね。マイナス100からのスタートでしたから、とにかく楽しいということが大事なかなということと、もうひとつ、僕は小学校がよくなれば確実にいいですけど、その子ども達が確実に卒業して中学生になり高校生になり、そして30歳、40歳となり、ということを見ると、「じゃ、どんな子どもにしたいですか」というある種の合意の部分があればいいなと思い、子ども達には「のび太」のようになろうと言ったら、みんなに嫌がれたのです。のび太を「いじめられっ子」と言われてしまったけれど、映画の中で「のび太の結婚前夜」というとてもいい話があるのです。そのこととうちの小学校学区で、世界で最初に点字ブロックが敷かれた学区であるという歴史的事実があるのですね。これはすごいな、点字ブロックは静岡に来てもありましたし、ニュージーランドに行ったときにもありました。とにかく、自分の友人のために点字ブロックを敷いたことが、いまや世界に広がっていることはとてもうれしいことであり、そのような歴史がある町なのだから、君達も自分のことだけでなく、他の人

にも優しくありたいと、「自分の子どもだけがよければいいということではないですよ」とやんわりとみんなに言いながら、大きくなったときに「変えていきたい街」になればいいねと言い続けています。

岸：コーディネータですね。これから学校、地域、家庭をつないでいくためにも重要なのはコーディネータです。僕うれしいのはですね、日本は今までコーディネータのようなソフトにお金を掛けない国だったですね。アメリカやイギリスなどではソーシャルワーカーという専門職があって、地域に問題があると専門職として仕事で入る方がいるですよ。これも一種のソフトですね。日本も、やっとソフトにお金を掛けるようになりましたね。やっぱり明治5年にできた教育制度というものは、圧倒的に先生だけの職場、だから学校の施設も先生のもの、みたいな意識が圧倒的にあるのです。その言葉の名残が登校、「学校に登る」と書くのですから、下校は「学校に降りる」と書くのですから。その意識をどのように変えていくのか、変えていきつつ、双方にメリットがなければ、精神的なメリットがなければ、疲労感だけになってしまう。どうせ問題があって当たり前なんです。それをつなぐ立場のコーディネータ、そのコーディネータも悩みながらやってきている。ということが佐藤さんのお話を聞いて、佐藤さんはすばらしいですね。だから、佐藤さんを皆さんの地域に1人ずつと言うわけにいかないの、やっぱりそれぞれの地域で先生がコーディネータになったり、地域の方がコーディネータになったり、そういう意味で保護者側で言えばPTAの役員を経験したり近いかなと、または先生を退職した方など、そのような経験をプラスに転じてやっていただければと思います。

さて、時間がないので会場の方からご意見、ご質問があれば・・・

川上：上野小学校の川上と申します。私は行政のほうにいたことがありまして、コーディネータとして学校側との連絡調整役にかけてでました。貴船小学校の佐藤さんはボランティア精神が強い方で、色々なところに出ていらっしゃる、調整役として役立っていらっしゃる、コーディネータなされるときに役立っていると思います。佐藤さんみたいな方が大勢いらっしゃることが「地域が助かる」と実感しています。

北山小学校 菊池

菊池：富士宮市の研究指定で、PTCAの組織化ということで取り組んでいる。話を聞いてみると皆さんの組織と少し違うのです。組織化することから始めるのですが、どのような組織をつくれればいいのか？そこで学校の評議員の中には地域の方も一杯いますので、その中で組織をどう作るか。どんなことをやろうかと学校が主でやっていたのです。コーディネータさんを決める中でも、学区の小学校が2つあり、両方から出したほうがいいのではと、色々な経験者の中から地域の中で信頼されている方を選ぶことで、そこまでは出来ました。実際に働いてくれるボランティアさんが 地域支援本部は町村にひとつしかないという中で文部科学省から補助金があるのですが、私たちは何もないので何もやるのもボランティアです。授業、環境、安心安全3つの要素の中で、学校力を高めるのPTA、気楽にそういう応援団で、その中でPTAも活性化したらいいな、と思っています。共稼ぎで集まりにくい、PTAの役員も大変、という人たちが巻き込んで、なおかつ学校に、授業に入っていくのも難しいものなのですが、地域には子どもがいないが学校に協力したいとか、学校にきたら若さをもらおうとか、人に教えることがこんなに楽しいのかという方々がいることを発見できた。ですから学校だけが子ども達を育てるのではなく、学校に来ている、双方向のメリットという中でいかに皆さんを理解していくか、そこからどのようにつながっていくかが大切。先日も77歳の方が英語の授業の中でサックスを引いた、「これはすごい」ということになり、文化祭の中で演奏してもらおうということになった。そのようなつながりが子ども達の中から出たということが進歩だと思っています。

岸：大体、子ども達って変なおじさん、おばあさんって好きですよ。先生ばかりだとまじめばかりで・・・（笑）

で、僕らもPTAからスタートしたのですが、秋津コミュニティという生涯学習団体があって、色々なサークルが出入りしています。その中には現役保護者もいて、出入りしているうちに「PTAは推薦されたらやらなければいけない」という雰囲気になって、5年先までPTA会長他役員の顔が読めるのですよ！そのあたりがPTAの役員の負担感、現役だけ

でやってないでコミュニティを含めて活動エリアを開くことによって、逆に現役の楽になっていくのではないかと！恐怖感があったが実態がよく見えるようになったとか、そんな感じが4つの事例発表地区にありますか？例えば、次のPTA会長とか、決める際にスムーズになったとか、決めやすくなったとか、一言ずつおっしゃってください。

長堂：スムーズに決まっています。専門部の長は難しいですが、会長はスムーズです。次期会長も学校とも連絡がよく、みんなからも「やってよ」と言われています。

太田：苦労していると思います。そんなにスムーズにはいきません。でもカナダ人が副会長していたり、色々な人がいるのがいいなと思っています。私の次の会長は、とても上手になってくれていますので、期待しています。

竹内：貴船PTA会長の竹内と申します。役員ですが苦労はしております。ただ私も貴船小学校の卒業生なので、子ども達にもお話しているんですけど、学校に恩返しをする気持ちでPTAをしています。もし出来たら、寄船小学校の将来PTA役員をしてもらいたいと、母校に子どもを入学させてもらいたいとお話している次第です。今のところうまく引き継いでいただいています。

太田：スムーズに決まっています。しんどくない役員会として、「早朝地域教育協議会」をお話させていただきましたが、ここ5年くらい夜の役員会は一切やっていません。その早朝の役員会には3名のコーディネータ（保護者）がいますので、そこで決まったことはメールなので私どもに伝わってきますし、また、色々な行事の祭に次の行事の話もしますので、夜の会議はしていませんし、教職員の方も保護者も仕事終わりに集まるのは大変なので、言われるような負担感もないのではと思います。広報部をやめたのもそういう意味です。負担感もないのではと感じております。

岸：はい、ありがとうございます。工夫もありますよね。皆さんがおっしゃったように。今まで夜とか、ウィークデーの昼間に当たり前に行っていた会議を早朝にもっていったら、今まで予想もつかない方が参加するとかね・・・それで冒頭で手を挙げていただいた方で、多数派だった現役PTAの保護者の方で「これだけは聞いておきたい」とか、「こんなことで悩んでいる」とかいう方いませんか。

<挙手なし>

これで終了いたします。

二日目「シンポジウム」の記録

コーディネーター 永谷

パネリスト 第一分科会 矢吹 第二分科会 油谷 第三分科会 宮崎 第四分科会 岸

分科会報告

矢吹：現状と課題の共有を図れた。

多様な活動の事例が紹介された。

松山市P：「親子ふれあい食育レストラン」ダンボールかまどを使用。

親子でともに行う取り組み

「味噌づくり」Pとして：子ども・保護者・地域と実施

外部人材として：総合学習での実施、協力

黒公小：学社融合は普段から意識して行っているわけではない。

上越の教育の信条→上からゆわれたら「はい」という

基本的には「学校教育の充実」が大切と考えている。

「〇〇教育」という分野→学校では厳しい現状もある。

小規模校は一人複数分掌を持つ現状。

「米づくり」4校で行っていて、「米づくりサミット」という形で意見交換の場を持つ。農薬使用の是非などについての意見交換等。

「議論を通し、それぞれの考えを太くする」のが学校の役割。

「活動を通してのWINWIN」の関係づくり。

富士宮市：行政の役割は「関係機関との橋渡し」

家庭への啓発。

学校の先生が「外へと目を見開く」、「選択する目」の大切さ。

それぞれの中で課題を見つけながら行っている。

油谷：学校からのアプローチ

池田中：職業体験 教員が地域にお願いに行く際は「名刺持参」

MTP（マイタウンプロジェクト） 地域の活用ではなく、学校から地域づくりへ
地域と共にやれることは何かを本気で考える

志摩市：NPO 活動。75%不登校体験を持った子どもたちの支援。

特別なことをしているのではなく、身の回りであること。

「問題児」でなく「個性を持った子」→「どうかすか」を考えること
が大切

2005年構造改革特区を契機に「志摩の人と教育」を結びつけた。

地域の人を借りた職業体験。スキルを身につけることで、一人で生きて
いくことのできる子の育成。

清水小：学校の安心・安全 校内・校外の事故

サイン 見過ごしたら「不注意」で終わる

「国際認証ルール」の一つの基準にあてはめて考える。PDCAの検証。

この考え方を学校にも取り入れた。

児童・教職員・地域と共に考え直し、国際認証も取得。

(例) 机の角をなくす、滑りやすい箇所の改善等

「学校の中だけでは教育は成り立たない」

宮崎：地域からのアプローチ

学校からのアプローチはうまく行く

校長：権力者→校長が動けばなんとかなる。

校長が変わることで地域が振り回される問題。

→地域側が主体性や方法論を持つことが大切。

地域には地域で活動している社会活動がある。

富士宮：学校に対して地域側もきちんといえる関係ができています。

学校の要望でも断るときは断る。

(例) 読書感想文のとき課題書を取り上げてほしい。

戦争の時期、戦争ものを取り上げてほしい。

→このような学校側の要望が読み聞かせ支援者の意向と一致しない

場合には、学校側の要望であっても断ることがある。

これはお互いが信頼しあい、きちんと言い合える関係ができてい
るため。

(要因)・物理的な情報交換の機会が多い。→お互いの考えが理解できる。

・一人の（個人としての）ボランティアではなく、「組織」として
体系化されている。

まじやりんこ：・きめ細かな情報発信。

・「まじやりんこ」だけのものではなく、「四街道市」全体のもの
として活動を考えている。（みんなで「まじやりんこ」を見る。「ま
じやりんこの子」をみんなで見る。という考え）

青森市工藤さん：今の日本の子どもの現状を憂い、地域の力の活用が大切と考え
活動している。

岸：家庭・学校・地域をつなぐPT（C コミュニティ）A 活動

地域を入れることで、教育基本法 13 条の方向へと向かうこともできる。

高知 前田さん：「C」を入れた PTCA 活動。

岡山 太田さん：NPO (YMCA の理念) を加えた。PTCNA 活動。

富士宮 貴船小：PTA と学校支援地域本部事業。PTCA で活性化を図る。

「地域あつての学校という姿」を取り戻す必要性。

「学校に対する意識を変える」必要性。「学校と保護者をつなぐ」必要性。

コーディネーターの存在→今までの日本はソフト面にお金をかけていない。今後は「守秘義務」

等の知識も必要。コーディネーターの資質向上、育成が必要。

キーワード「ひらく」家庭・地域・学校を「ひらく」「ころばぬ先の杖」となる。

永谷：Q 学校と組むとき（学社融合）の難しさ？

Q 食育を行う上での学社融合のメリット？

Q 学校からの具体的アプローチは？

矢吹：・学社融合を軸とした分科会運営をしていない。（もともと行った上での取り組みのため）

・富士宮：栄養教諭が市で一名のみ。学校内で行う際の限界。

・やるときに「ねらい」を持つことが重要。「結果良し」でなく、「～というねらいをもって行うこと」が重要。

・学社融合が前提として行われている。

・宮崎会長が述べた「学校からアプローチすればうまくいく」という意見には異論こうとは限らない。通常、学校側に都合の良いアプローチ事案が多い実態。

・先生の異動の課題については NPO の活用という手段もある。ただし、継続面の課題あり。

永谷：教育の中身の充実のため、子どもたちに教えることはなにか？

油谷：地域の便利屋ではない。やっている人の笑顔や苦しみも教育の中に反映する必要。

「学校の先生が先生に見えず営業マンに見える」→「人と人との信頼ができる」

「フェイスツーフェイス」「信頼関係の再構築」

人間教育：人と人。顔を見ないとわからない。先生が地域に出て行くことで先生も地域を評価した。

宮崎：気づきと深まり。融合研の「広がりと質の深まり」の論議と課題

学校と関わることにより、地域の人にも見えてくることがある。

先生は教育のプロ、ただし地域の中身は支援者のほうがわかっている。

学校に通う子どもが存在していること自体に意味がある。

永谷：「C」がなぜ入るのか？

岸：「C」が入ると学社融合に明らかにメリットになる。

見える学力の向上につながる。

地域にとっても、生涯学習社会、生涯学習コミュニティを誰にとっても身近なものとする
メリットがある。

地域側にサステナビリティを築きあげたい。自分たちの地域の子どもたちを自分たちで育てる意識付け。

PTA→義務感でやっている人多い。「C」が入ると、PT は任意とすることができ、やり
たい人が入る等の選択肢ができる。楽しく活動するために「C」も入れる。

永谷：「楽しくやっていけばいい」というのが共通意見としてある。PTA の義務感は？

岸：PTA は大人の社会教育機関。本来は任意だが、子どもが入れば入るものという思いから強制感がぬぐえない。でも「C」が入ることで負担感は減らせる。

宮崎：「C」は誰か？コミュニティとして全員で支えていく方策を考えることが大切。どの人も
スポイルしない街づくり。その姿を子どもたちに見せることも大切。

油谷：「楽しい」とは何が楽しいか？先生のみが教育する→地域・学校で育てる子ども。
→育てた成果の見える楽しさ。

永谷：学校支援地域本部・・・新しい課題を見つけ、乗り越えていくエネルギーを感じた。

常にアンテナをはっている姿勢。

矢吹：松山P：PTA活動「ありがとう」「お互いを励ましあう」感謝をあげている。

PTA→「元気なところ・・楽しくしている」「元気ないところ・・やらされ感ある」
組織としての自立性を担保していくことが肝心。四者（学校・地域・家庭・行政）
連携の中でどうやっていくかが大切。アプローチの仕方についても多様性が大切。

岸：行政の役割→今までの制度が当たり前という考え。

行政に地域が動かされている→これに対し、地域はどうするか？と考えた。

教員も免許を持っているだけではダメ。常に勉強する必要性。

民意によって制度をつくる必要性。行政は行政らしくやる必要性。

矢吹：行政職には変な発想がある。

ある自治体では、ボランティアの人を受け入れる取り組みを行う際、その人選段階
で、現在アルバイトとして雇用している人を解雇して、ボランティアとして受け入
れば良いという意見を述べた人物がいた。

また、ある県では課長クラスの人であっても「官尊民卑」という表現を述べた人物もいた。

宮崎：行政の人と一元化して見ているが、いろいろな人がいる。

行政も、地域側のアプローチの後押しなどの例も多い。

(例)「まじゅりんこ」に対する四街道市の課長

「手は出すな」→「理解しろ」→「評価しろ」

そのためにも、行政が変わるための働きかけが大切

市役所職員は市民活動のモデルともいえる

永谷：市民活動団体はそれぞれ頑張っているが、担当の働きかけ等はできているか？

会場：「学びたい」の気持ち。ラーニング-オーガニゼーションの気持ちを持つことが大切。

ラーニングのチャンスがあればPTAの負担感も減るのでは。

岸：PTAの規約にも問題がある。「子どもの健全育成」とかかかっていると負担感になる。

秋津では「会員相互の資質向上」としている。保護者と教職員が互いに学ぶ団体とい
う考えにたちかえった。一般のPTAには、はき違えているところも多い。

会場：富士宮では地区の関係が成り立っている。

義務か否か、楽しいから等でなく、「学校のために」やらなければならないという意
識がある。「楽しくない」こともあったが、「やったあとの充実感」が親の成長にも
つながった。現実のPTA活動からは「楽しい」という一言だけでは言いきれない。

油谷：現場の先生方の忙しさ→仕事が現場に多すぎるのではなく、「時間的に忙しい」と
「精神的に楽」との関係

「やりがいのある場所や環境」をつくると良いと思う。

PTAも同様なのでは？PTAをやるなら「これができる」ということのできる場を持
つことができれば良いと思う。

会場（池田中教諭）：「学校のために」といったらうまくいかない。

「子どものために」といったら手を貸してくれる。

「ちょっと」という言葉は大切。

「ちょっと手を貸して」や「無理のない範囲で」

池田中の土曜授業：両者の相乗効果あり。

考え方を間違った情報発信したらうまくいかない。

「工夫と改善」が大切。

永谷：「時間的に忙しい」のではなく「精神的に無理がある」と負担感がある。

宮崎：能力の無い教師は忙しい。能力のある教師は、授業もうまいし、対応も良いので
うまく行く。

現在指導主事として町内を回っているが、来て欲しいという要望が多い。

結果、研究授業も多く、負担は増しているはずだが、教員にとって「子どもの変化
が見て取れる」ため、「忙しさ」が「負担感」につながっていない。

「忙しさ」をケアできるだけの「気持ちのほり」が持てるかが大切。

永谷：時間がきてしまったため、途中ではあるが以上。

授業参観・教育講演会についてのアンケートから

※今回は、フォーラム開始前に地域の方をゲストに迎えての授業を参観することができました。その授業について、関係した人からのアンケートを一部掲載します。

～保護者の方々より～

◇国語◇

・写真の情景から俳句を詠むという内容でしたが、どの句も写真からではなく、まるでその場にいたかと思わせるくらい感性豊かな作品でした。

◇道徳◇

・正直道徳の授業って...という思いがあったのですが、質問内容や移動しての選択など、とても興味深いものでした。子どもたちも生き生きと楽しそうに、でも、自分の気持ちに素直に真剣にと悩んだり迷ったりしているのを見て、子供たちがいま、思っていること、感じていることを垣間見ることができたような気がします。今回道徳の授業参観に対する考え方が変わりました。

◇家庭科◇

・給食の方も授業に入って細やかな指導を下さり、子供たちがフライ返しでお好み焼きを始めて焼いていた時の姿が印象的です。先生の授業を受けてみたいお母さんもいます。

◇理科◇

- ・元町長さんの話がとてもよかったです。子どもたちの将来。社会人になってからも、役立てるような授業に期待しています。家での顔と違った面が見れるので、これからも参加できる限り、参観会に足を運びたいと思います。
- ・普段住んでいる芝川で地震が起きたらどうなるかなんて考えていなかったのが、ためになりました。
- ・地域の方々が、日々子どもたちが学んでいる学校にかかわっていくこと、それは、行く行くはその地域の発展につながるのだと思います。

◇英語◇

・先生も生徒も食いついた授業、見ていて楽しくなりました。どの子も英語が好きになるでしょうね。

◇教育講演会◇

- ・大変考えさせられる点の多い講演であったと思います。
- ・自分がどれだけ恵まれているか、少しでも感じてもらえたら、親としてもうれしいです。
- ・家で子どもと講話の内容についていろいろ話をしました。こういう内容について真剣に子どもと話をするきっかけになりました。

◇その他◇

- ・学校と地域が協力しての授業もいろいろな経験ができてよかったと思います。
- ・全国から大勢の方が芝中の子どもたちの姿を見に来て下さりとても驚きました。地域の方も先生と一緒にあって授業を盛り上げて下さり、大変興味深い授業参観だったと思います。いつもの授業参観では、自分の子どものクラスだけを見ていた私ですが、今回はほかの学年の授業の様子も参観させていただきました。どのクラスも落ち着いた雰囲気の中で、子供たちひとりひとりが積極的に勉強していて感動しました。
- ・この度のように地域に開かれた学校づくりをする中で、保護者と地域、学校が連携し、大人が責任もって、子供を見守り育てていくことが、何より大切なことだと痛感いたしました。
- ・地域の方が、先生となって教えてくださるという授業は、この芝川ならではの、と地域に住んでいるありがたみをかんじました。まさに「融合」とはすばらしい言葉だなと思いました。
- ・地域の方々を講師に招いての、授業を参観することは、今までになかったことでしたから、とてもいいと思いました。子どもたちも生き生きと楽しそうに取り組んでいて、活気がありました。

～地域の方々より～

- ・普通の授業の時とは違って、生徒たちが楽しそうにしていたのが印象的でした。
- ・大勢の見学者がいる中で、出来た料理を食べている男性に聞いてみたら、大変おいしいとっていました。その顔がとても良い顔でした。子どもたちもつくってみてよかったとおもいます。
- ・学社融合公開授業を参観し、地域住民が子どもたちの教育に関心を持ち関わることの大切さを再認識いたしました。講師をなさった方々、授業をうける生徒たちの態度等、すべてに素晴らしいものを感じました。あらためて芝川中学校が、わが地域にあることを誇らしく思いました。

～講師の先生方より～

- ・良い機会を与えていただき、心からお礼申し上げます。今後もこの取り組みが続けられ、地域に根ざした学校教育が、さらに実を結ぶことをねがっております。ありがとうございました。

3 融合研被災地支援実行委員会について

規約を作り、また役員も決まって、順調に活動が始まっています。
※寄付を受け付けております。

実行委委員長あいさつ

人と、地域に、絆を作る～東日本大震災支援実行委員会から

会員No.6 矢吹 正徳（東日本大震災支援実行委員会 委員長）

本年3月11日、東日本大震災により多くの方々犠牲となりました。心より哀悼の意を表します。復旧・復興の途上にあるとはいえ、大きな被害に遭われた方々、そのご家族、学校・教育関係者の方々やまたそのご家族の方々、いまだに安否不明の状態にある方々を憂慮されている多くの方々に心よりお見舞い申し上げます。

東北地方を中心に、被災地域で活躍されている融合研の方々も多くおり、震災直後からメーリングリストなどを通じて、その動向や他の会員などの支援の様子なども伝わってきました。そのたびに、安堵し、あるいは憂慮の念を深めた会員の方々も多かったらと思います。

融合研では、現地で復旧・復興活動に当たられている会員の方々や、被災地へ支援に入られる会員の方々、それぞれの地域で支援への思いを抱き活動している会員の方々の思いを受け、支援活動の一助になればと、5月29日の役員会で「東日本大震災支援実行委員会」を発足させました。

「東日本大震災の復興支援のため、学校教育や子どもの育成活動への直接的支援や、被災地支援活動を支える募金システムの創設、被災地などから情報を発信して普及・啓発に努め、被災地を含め全国各地の学社融合を促進する」ことを設置目的にしたものです。

委員会としては①被災地支援に対して会員のできる活動情報集約②支援活動を希望する会員の申請に応じ、活動支援金補助③被災地支援活動を支えるための会員からの募金④被災地会員からの情報など発信を促進し、全国の会員への普及・広報⑤被災地でのミニフォーラム開催—などを、その業務、役割に掲げてきました。

支援のための募金の窓口を開設し、一部の活動に助成などを行っているものの、十分に機能しているとは言えませんが、「会員の要請または会員の発意により、被災地へ支援する活動に対しての支援を行う」姿勢を明確にしたものです。

大地震、津波などに伴う復旧・復興には、残念なことに長い時間が必要だと指摘され、福島第1原子力発電所事故の収束時期と相まって、息の長い支援活動が必要になります。今年はまだ、台風12号などや、新潟・福島への集中豪雨など自然の猛威によって人々の生活が蹂躪されています。

東日本大震災や各地での災害を契機に、人々の間で、あるいは生まれ育った土地への思いを媒介に「絆」の大切さがあらためて見直されています。ただ、この間、特に、原発事故の問題は、正確な情報の行方、未知の世界に対する知識のなさなどから、何を信じて良いのか分からないという不安を多くの方々にもたらしたように思います。学校の現場で言えば、保護者の方々が学校の情報や行政から出てくる情報に対して、かつてないほど疑念を抱くようになってしまいました。直接的な被害と同時に、大きなダメージを生み出しています。

人と人との信頼関係や、地域間での結び付きを強固にすることができる融合研の活動が今ほど求められている時期はありません。

被災地への直接的支援、間接的支援だけでなく、それぞれの足元での融合的な活動が、人と人との絆を強め、地域への愛着を生み出し、ひいては日本全体の復旧・復興につながるのだと信じて、日々の活動に邁進していきましょう。

学校と地域の融合教育研究会東日本大震災復興支援実行委員会規約

1 委員会の名称

本委員会は、学校と地域の融合教育研究会東日本大震災復興支援実行委員会と称する。

2 事務局所在地

本委員会は、事務局を千葉県佐倉市中志津7-17-4に置く。

3 委員会の設置目的

本委員会は、東日本大震災の復興支援のため、学校教育や子どもの育成活動への直接的支援や、被災地支援活動を支える募金システムの創設、被災地などから情報を発信して普及・啓発に努め、被災地を含め全国各地の学社融合を促進する。

4 委員会の業務

本委員会は、次の業務を行う。

1 被災地支援に対して会員のできる活動情報集約

2 支援活動を希望する会員の申請に応じ、活動支援金補助

3 被災地支援活動を支えるための会員からの募金

4 被災地会員からの情報などの発信を促進し、全国の会員への普及・広報

5 被災地でのミニフォーラムを開催

5 委員

委員は、学校と地域の融合研究会(1997年8月4日設立)の会員をもって委員とする。委員は、本人が希望する参加形態により、委員会に常時出席する「委員」と、遠距離等のため委員会には出席しないが研究開発活動については融合研メール上で意見交換を行う「メール委員」の2種類とする。

6 委員会の組織構成

委員長(1) 副委員長(若干名) 委員(若干名) メール委員(若干名)

7 委員会議

会議は、原則として2ヶ月に1回開催する。学習会を兼ねる。

8 被災地支援活動の支援

会員の要請または会員の発意により、被災地へ支援する活動に対しての支援を行う。

9 その他

その他必要なことは委員会議で決定する。

委員会は融合研役員会と連絡を密にし、役員会は委員会をサポートする。

10 本規約は、2011年5月29日の融合研役員会における規約の改正とともに制定。

学校と地域の融合教育研究会東日本大震災復興支援実行委員会役員名簿

- 1 実行委員長 矢吹 正徳（日本教育新聞社報道部長）
- 2 副委員長 宮崎 稔（学校と地域の融合教育研究会会長）
岸 裕司（株式会社パンゲア代表取締役）
野澤 令照（仙台市立寺岡小学校長）
油谷 雅次（大阪府地域コーディネーター）
渡辺 喜久（前、富士宮市立芝川中学校長）
- 3 実行委員 常田 洋（市川市ナーチャリングコミュニティ）
小山 みさ（市川市ナーチャリングコミュニティ）
車 育子（株式会社パンゲア役員）
城 佐知子（富士宮市立大富士中学校元PTA会長）
佐竹 正実（秋津コミュニティ役員）
種田 祝次（秋津コミュニティ役員）
永谷貴弘（立正大学講師）
藤尾智子（紫波町生活部社会福祉課長）
- 4 事務局長 宮崎雅子（NPOこどものまち副代表）
事務局次長 佐々木徹（厚木市役所）

寄付受付;

振り込み口座; (銀行名) ゆうちょ銀行

(名義人) 学校と地域の融合教育研究会東日本大震災復興支援実行委員会

※寄付受付口座: ゆうちょ銀行・店名 008・普通口座・口座番号 9648309

被災地支援活動の一部を紹介します。

(ほんの一部分です。詳しい報告は、直接、本人にお聞き下さい)

岸裕司さん

7/31 から2度目の被災地の子どもたちや被災者の大人を励ましに行き、昨夜 8/4 深夜に帰京しました。

秋津コミュニティのヘンなおじさんの幹太郎(やすろう)さんと再度息子のセンタとです。

仙台では野澤令照副会長と桂子さんご夫妻宅に今回も泊めていただき、岩手では紫波町のNPO法人に泊めていただきました。野澤さん、藤尾智ちゃん、ありがと ありました！

さて、詳細は近日「長い長いねちっこい文章」とともにご報告をさせていただきます。こりないでお読みいただきたく願います。

結論を先に言うと、「宮古市と仙台市、少し仙台市から南の名取市と亘理(わたり)町に融合研としてつながりができそう」です。今後は希望される会員が支援に行けるように具体化します。

高台にあることから難を免れた岩手県宮古市立鍬ヶ崎(くわがさき)小学校で、ヘンなおじさんがバナナのたたき「あげ」をしました。「あげ」は、「売り」ではなく「あげ」るからです。ただし口上の都合上、「まけろ！」「もうひと声！」とかのカケアイを子どもたちに言ってもらいながら「あげ」ます。

校区はほとんど壊滅で、校庭の仮設住宅で暮らしています。鍬ヶ崎小学校は、智ちゃん、宮古の会員平井ふみ子さん、最初に訪問した宮崎稔会長にお世話をいただきました。3.11 から4カ月が経過し、子どもたちはみんな元気いっぱい！ 大人の方が「もうひとつ」の印象でした。

宮崎稔さん

さきほど雅子事務局長と被災地支援から帰ってきました。今回は3度目ですので、いろいろと見えてきて思いもありますが、きょうは日程等を報告します。

○9月9日(金)早朝に千葉を出発。夕方仙台着。野澤副会長の家に泊。

○10日(土)午前中に、野澤令照副会長とともに元融合研副会長・前相談役の「庄子平弥さん」の墓参。ご令嬢の(と言っても仙台市内の郵便局長。年齢?才)と、震災日の現場の混乱やその後の状況等について情報交換。その後、平弥さんの奥様も帰宅して話に加わる。
夕方に、岩手県紫波町で、藤尾智子会員の陰でのコーディネートのもとに、子育てに関わる人と「子育て応援センターの運営に関しての学びと交流会」で2時間の講義と懇談。その後、宮古市立赤前小の校長夫妻や関係者と懇親会。夜は融合研に協力的な施設に泊。

○11日(日);稔と雅子が別々に行動。

【稔】8:00発で、遠野市の体験施設へ。県内のレクリエーション教育団体の方が陸前高田市の小学3年生を招待しての楽しいレク・昼食づくりに15:00まで参加。

※父親が津波の被害に遭った子もいました。

17:00盛岡市で岩手県の平井会員とともにPPJの会議に参加。(熊坂会員ともお会いする予定でしたが、手違いで会えませんでした。残念!!)その後は懇親会。地ビール等で盛り上がりました。

【雅子】7:30発で、藤尾会員・宮崎道名会員と共に、田老町へ。「被災地のまちづくりコーディネータ養成講座」への参加の呼びかけ等に。

14:30大槌町(吉里吉里)へ。Tシャツの代金支払いや打ち合わせ。また紫波町へ避難していた人のその後の状況視察等。

21:00盛岡着。泊は紫波町(連泊)。

○12日(月)8:00発。稔と雅子の二人で、宮古市鎌ヶ崎小と赤前小へ。大阪フォーラムの参加依頼や被災地のその後の状況見聞等。

19:00 藤尾会員・宮崎道名会員と共に雅子は「被災地のまちづくりコーディネータ養成講座」への参加の呼びかけ等について平井会員と懇談。稔は、お疲れモードのために温泉に。泊は紫波町。

○13日(火)8:00発。東北のまちづくりについての重鎮である菊池氏に話を聞くために宮崎道名会員と共に、遠野市へ。すごく参考になった。

11:00~15:00宮崎道名会員と共に、地域の人が活躍している元気な「道の駅」の様子を見聞しながら土産を買い、15:00紫波町役場で藤尾会員からTシャツを受け取る。この間、紫波町や周辺のリンゴ畑や溜池等の素晴らしい景観を見たりおいしい食事をしたりしました。

その後千葉へ向けて、岩手を出発。

※途中、東北自動車道の事故による通行止めで、宮城県大崎市に緊急宿泊。その宿で、東京学芸大学の学生ボランティア10人に、宮古市の様子を情報提供。

○14日(水)8:30大崎市発。15:00千葉着。

今回もハードスケジュールでしたが、末永い関わりをして行くための土台作りという意味で、とても有意義でした。

4 役員会報告

2011. 9. 23役員会 於、パンゲア

○参加者;宮崎稔、岸裕司、油谷雅次、永谷貴弘、常田洋、青木信二、佐竹正実、宮崎雅子

議題

- 1 大阪フォーラムについて
- 2 被災地支援実行委員会について
- 3 役員人事について
- 4 その他

討議

1 大阪フォーラムについて;上記(会報41号の3ページから)に掲載した内容で決定しました。

2 被災地支援実行委員会について

- ・今後、ホームページに載せていくようにする。
- ・内容は、規約・役員・実行委員長の挨拶・寄付振込先・支援に出かけるための手続き、活動の様子等
※「子ども教室のブログのように、会員限定でホームページを見た人からの自由投稿欄を設けたらどうか。」という案が提案されましたが、当面は行わないということになりました。
- ・支援に出かけるための手続き一覧を作成し、申請があったら規約に則って「審査→許可」という手順でするようにします。
- ・会員が、会員外の人や子ども(中学生ボランティア等)を被災地支援に連れて行くことも可能です。その際の経費については、申請内容を見て判断させていただきます。
- ・支援活動に行った人への実行委員会からの補助は、会が正式に設立の承認を受けた「5月29日以降」から支払われます。
- ・必要経費として補助の対象となるものは、
①ガソリン代(全額) ②材料費(全額) ③宿泊代(上限;一泊5000円) ④食費(上限;一日2000円) とします。その他は、事務局まで問い合わせください。
※なお、宿泊は融合研として契約している所もあります(一泊、3人まで。何人泊まっても3000円)。場所は、岩手県紫波町です。なるべくそちらをご利用ください。また、仙台市やその他の場所にも公民館やNPOが利用を公開しているところがあります。事務局まで問い合わせください。
※高速代金は、被災地からの支援要請を受けると居住地の自治体に「災害派遣等従事車両証明書」を発行してもらって無料で行くことができる制度があります。高額になると思いますので、できるだけそれをご利用下さい。ご不明の点は、事務局まで問い合わせください。

3 役員人事について

- 監査の交代;常田洋さんが、千葉県支部長を兼務していましたので退任しました。新任に、「車育子さん(秋津コミュニティ)」が推挙されました。
 - 事務局次長の新設;佐々木徹さん(厚木市役所)が、事務局次長として推挙されました。
- いずれも、大阪フォーラムでの総会に於いて、承認を問うこととなります。

4 その他

- 大阪フォーラムの問い合わせが来ているので、早くホームページにアップする必要がある。
- 支部の現状について;年報に掲載するための原稿依頼が、担当者から送られています。活動が停滞していると考えられるところは、事務局長から問い合わせがあります。それぞれが立場をお持ちですので、活動出来ないにくい状況にあることも考えられます。その場合「今は、あまり活動していない」ということを報告して下さい。
- 地域での活動の中から中学生のボランティアが組織化されて、「今年度中に被災地への支援に行かせたい。」という事例の報告がありました。
- 残部が少なくなった号(バックナンバー)をPDFにして残していくことにしました。

5 総会の意思表示について

○大阪フォーラムに参加出来ない方で、メール会員はホームページに近日中にアップしますので、インターネットから、また印刷物会員は、お届けの会報に同封されている印刷物で意思表示をして下さい。（11月20日までに返信下さい）

議題

- 1 平成22年度事業報告
- 2 平成22年度決算報告
- 3 平成23年度事業計画
- 4 平成23年度予算案
- 5 平成23年度役員について
- 6 その他
 - ・東日本大震災復興支援実行委員会について

1 平成22年度事業報告

- 22. 10. 3 第14回融合フォーラム2010 in 富士山のまち富士宮
場所:富士宮市役所
- 22. 12. 29 役員会
場所:パンゲア
- 23. 5. 28 千葉支部大会
場所:篠原学園
- 23. 5. 29 役員会
場所:パンゲア

2 平成22年度決算報告

- 収入の部.....1,603,033円
- | | | |
|------|---------------|------------|
| (内訳) | 繰越金 | 1,288,717円 |
| | 会費(3000円×101) | 303,000円 |
| | 資料代 | 11,000円 |
| | 利息 | 316円 |
- 支出の部.....547,383円
- | | | |
|------|-----------|----------|
| (内訳) | 通信費 | 12,210円 |
| | 事務用品 | 17,327円 |
| | ドメイン料 | 4,100円 |
| | 年報代(送料含む) | 315,000円 |
| | 会議費 | 18,746円 |
| | フォーラム補助 | 180,000円 |
- 残高.....1,055,650円

監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

監査 小山みさ
車 育子

3 平成23年度事業計画

- 23. 11. 26～27 大阪フォーラム
- 24. 5 千葉支部研修会(予定)
- 適宜 役員会

4 平成23年度予算案

- **収入の部**……………**1,365,950円**
 - (内訳) 繰越金 1,055,650円
 - 会費(3000円×100人) 300,000円
 - 資料代 10,000円
 - 利息 300円

- **支出の部**……………**1,365,950円**
 - (内訳) 通信費 15,000円
 - 事務用品 20,000円
 - ドメイン料 4,100円
 - 年報代(送料含む) 500,000円
 - 会議費 70,000円
 - フォーラム補助 200,000円
 - 予備費 556,850円

- **残高**……………**0円**

※検討内容:

- ①会議費が昨年度より大幅に増えているのは、地方から役員会へ参加する人に対して若干の交通費補助を検討しているためです。
- ②年報代が増えているのは、論文の執筆者が多くなり増ページとなっていることからくるものです。

5 平成23年度役員(案)について

会 長	宮崎 稔	島根県総合教育委員
副会長	岸 裕司	株式会社パンゲア代表取締役
同	油谷雅次	大阪府社会教育委員
同	野沢令照	仙台市立寺岡小学校
同	渡辺喜久	前、富士宮市立芝川中学校
監 事	小山みさ	市川市ナーチャリングコミュニティ
同	車 育子	株式会社パンゲア役員
プログラム研究開発	永谷貴弘	立正大学講師
委員長		
事務局長	宮崎雅子	NPOこどものまち副代表
事務局次長	佐々木 徹	厚木市役所

※事務局員については、現在検討中です。総会には提案できると思います。

※上記の内容について、「ご意見」「ご質問」のある方は、大阪フォーラムでの総会までに、事務局へご連絡ください。議題としてとりあげさせていただきます。

○大阪フォーラムに参加出来ない方で、印刷物会員は同封した葉書を返送してください。メール会員はホームページから返信してください。

※いずれの返信締切日も、集計作業の都合上11/20(日)(当日必着)までとさせていただきます。

6 事務連絡

○2012年のフォーラムは仙台市に内定

2012年度の融合フォーラムは、東日本大震災の被災があった仙台市から、立候補の意向が伝えられています。本部としては、全面的なバックアップの元に、ぜひ実施していただけるようにと考えています。もし正式に開催が決まりましたら、多くの会員の参加をお待ち致します。また、会員以外の方へもお誘いください。

○2013年度以降のフォーラム開催の立候補を受け付けます。

2012年度の融合フォーラムは、仙台市に内定し準備が進んでいます。
それ以後のフォーラム開催について、支部や近隣の人と相談したりして手を挙げてください。自分ひとりだけでもその意向がある方は、「事務局へとりあえず相談」してみてください。「2013年度以降なら」という地域でも構いません。「今は、まだあまり推進されていないから」という地域でも結構です。フォーラムを機会に、融合の推進が図られたという地域もごぞいます。どうぞ、奮ってご応募ください。

○会員継続の更新について

会員継続の手続きがまだの方は引き続きよろしく申し上げます。メール会員につきまして以下の様に連絡しましたが、印刷物会員の方は同封の書類をファックスまたは郵送でお願いします。

FAX 043-463-1929 〒285-0843 千葉県佐倉市中志津7-17-4 宮崎雅子宛

※メール会員に発送した内容；融合研ではお手数をお掛けしますが毎年更新のお手続きをお願いしております。年会費3000円のご入金もよろしく御願います。(6月以後にご入会の方は年会費は納入済みとなります。)

退会される方はお手数ですが、必ず「退会」のご連絡をいただきたいと思っております。

※更新登録は「今まで通りです」のご連絡ではなくきちんとお願いします。

融合研のHP <http://yu-go-ken.net/>の各種手続きの「オンライン手続き」よりお願いします。

○2012～2013年度の役員立候補を受け付けます。

一部の役員を除き、多くの役員は発足以来ほぼ同じメンバーです。会の活性化を図る意味からも新しい血の導入も必要とされています。役員になって融合研を改革したいというご意思のある方は、是非、「事務局まで」意思表示をしてください。お待ちしております。

編集後記（のようなもの）

会報42号をお届けします。41号が発行されてから、間が空いてしまったことをお詫びします。特に、富士宮フォーラムで記録をとって下さった方には、締め切りを急がせていただけに申し訳なく思います。ご容赦下さい。

今回は、大阪フォーラムの内容と富士宮フォーラムの記録・被災地支援実行委員会の内容と内容が多くなりました。読むだけでも大変でしょうが、是非最後までご覧になって、ご意見をいただくと担当としても嬉しいです。

融合研も15年目を迎えました。設立当初に比べ学社融合の浸透とともに、期待されている役割の変化を感じています。今後も融合研らしさを失わず、しかし会員の期待に添える内容になるように互いに努力したいと思います。地道な実践とより多くの方が参加されることを希望しております。(M)